

マタイによる福音書13章44節 「隠された宝」

1A キリストの働き

1B 聖書から聖書を読む

2B 恵み

2A 畑なる世界

1B 支配せよと命じられた神

2B 世の神となったサタン

3A 世界を贖われるキリスト

1B 世界を提供するサタンの誘惑

2B ご自分の血の代価

3B 花嫁なる教会

4B 世界の権利証書

4A 尊く、愛された者たち

本文

マタイによる福音書 13 章を開いてください。午後に、13 章を一節ずつ学びますが、今朝は 44 節に注目したいと思います。「**天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。**」

私たちは、マタイによる福音書で新しい区切りのところに入っています。イエス様が、天の御国の福音を宣べ伝えていたのですが、この 13 章から、譬えを使ってお話しになっているからです。これは、「分かる人には分かる」という話であり、その話の内容そのものは、身近にあるものなので誰でも容易に理解できるのですが、その意味しているところまでは、聞く耳の与えられている人たちのみに教えられます。例えば、種蒔きの譬えは、その種蒔き自体はありふれた光景で誰もが理解できるのですが、その意味していること、神の御言葉と人の心のことなのだということは、弟子たちのみに解き明かされている、ということです。

その中で、イエス様が語られた譬えが、ここに書かれていることです。天の御国が、「**畑に隠された宝**」ということです。私たちには、畑に宝を隠すという発想はあまりないかもしれませんが。けれども、農耕社会に生きていた彼らにとっては、よくやっていたことでした。大切なもの、貴重なもの、宝になるものを畑の中に隠していくのです。そして、小作人が主人の畑を耕していたとします。昔、誰かが埋めた、とてつもない貴重な宝が見つかりました。小作人は何とかして資金を集めて、その土地を購入します。その宝があまりにも貴重であり高価であるので、その畑の一区画を購入してもつ

たいなくない、ということです。

1A キリストの働き

1B 聖書から聖書を読む

ところで、聖書に出てくる譬えを読むとき、またどんな文体でもそうですが、聖書から聖書を読むということが大事です。何を言いたいかと言いますと、私たちはどうしても、自分中心に聖書を無意識に読んでいるということです。人が何かを行なうことごとについては、すぐに目に留まりますが、神が行なわれていることについてはなかなか目に留まりません。前回、読んだところでは、聖霊を冒瀆する罪は赦されないという、赦されないというところは目に留まりますが、けれども全ての罪が赦されて、人の子を冒瀆する罪も赦される、というところは読み飛ばしてしまうのです。

2B 恵み

聖書は、人が行なわれていることよりも、神が行なわれていることが中心です。人に注目、栄光が与えられるのではなく、神に注目、栄光が与えられているものです。だから、出エジプト記は前半の、イスラエルの民が紅海を渡ることができたという奇跡は大好きですが、25章以降の、幕屋の造り方については眠くなってしまいます。レビ記のいけにえの捧げ方についての教えは、すぐに寝てしまいます。しかし創世記1章1節を思い出してください。「初めに、神が天と地を創造された。」とあります。神が行なわれたことなのです。ですから、私たちは神のなされたことをその通りとして、アーメンとして受け入れ、神の前にひれ伏すこと。それが大事なのですが、どうしても自分が何をするか？という問いかけになってしまいます。しかし、聖書は神が行なわれたことが第一にあり、それで人が神の行なわれたこと、その恵みに対して応答する存在なのだということです。

そこで、ここ44節の譬えを見てください。ここで隠された宝とは何なのでしょう？そして、これが尊いと思って、畑全てを購入する人は誰なのでしょう？直感的に、「これは私たちが、尊いキリストを見つけることだ。」と思うのです。自分がキリストを知ったので、自分の全財産を売り払ってでも、この方を見出すのだという解釈になります。事実、今回、調べたら多くの注解書がそのように説明していました。

けれども、イエス様が弟子たちに語られていたことは、畑に種を蒔くということから始まっています。その畑というのは私たちで、種が蒔かれて実を結びます。イエス様が畑に種を蒔く、つまり御言葉を世界に語られることによって、それで御言葉を受け入れた者たちが実を結びます。そして、この譬えの手前には、良い麦と毒麦の譬えです。良い麦は御国の子たちであり、毒麦は悪い者の子たちです。毒麦は集められて火に焼かれますが、良い麦は倉に入れられます。畑というのは、飽くまでも世界であり、その中で実を結ぶ者たちがいて、その者たちが神のものとなされ、御国を受け継ぐという流れになっています。ですから、ここで畑に隠れた宝を見つけて、全財産を売り払って購入するというのは、私たちではなく、キリストご自身なのです。そして、その隠れた宝はキリス

トではなく、私たち自身なのです。主体はキリストであり、その恵みを受けるのはキリストのものにされた者たちです。

2A 畑なる世界

1B 支配せよと命じられた神

私たちが、この世界を考える時に、夜の星や月を眺める時に、これらが何のために造られたのかな？と思うことはないでしょうか？世界各地にある自然を見つめます。すばらしい動物を見ます。そして天体を見ます。それらが神によって造られたので、神の栄光を現すというのは、キリスト者として模範解答でしょう。けれども、それらが我々、人間のために造られたということをご存知でしょうか？詩篇 8 篇 3-8 節です、「3 あなたの指のわざであるあなたの天あなたが整えられた月や星を見るに 4 人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。5 あなたは人を御使いよりわずかに欠けがあるものとしこれに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。6 あなたの御手のわざを人に治めさせ万物を彼の足の下に置かれました。7 羊も牛もすべてまた野の獣も 8 空の鳥海の魚海路を通うものも。」これらはみな、私たちが足の下に置くものとして神が造られたのです。これが、神が人をお造りになられた目的です。ご自分が全てのものを造られましたが、人を造られる時は、「われわれに似せて造ろう」と言われて、ご自分のかたちに造られました。そして、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。(創 1:28)」

2B 世の神となったサタン

けれども、悪魔がエバを惑わし、神が食べてはいけないと命じられた木から実を取って食べました。それからアダムもエバからその実を受け取り、食べました。そして、そこから神から人が切り離されました。罪が神と人の仕切りとなりました。それだけではありません、地を従えなさいと命じられた人ですが、主は地上をも呪われたのです。「大事は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。(創 3:17)」このようにして、人は神から任されたものを、悪魔に引き渡してしまいました。それゆえに、世界はこの悪い者の支配に入ってしまった。イエス様は悪魔を、「この世を支配する者」と呼ばれました(ヨハ 14:30)。パウロは、悪魔のことを「この世の神」と呼びました(2コリ 4:4)。使徒ヨハネは第一の手紙で、「私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。(5:19)」と語っています。

3A 世界を贖われるキリスト

キリストは、今の世界をサタンから奪還し、神のもと贖い出すために来られました。パウロが、終わりの日に起こることをこう告げました。「それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。(1コリ 15:24)」イエス様の宣教の働きは、天の御国を宣べ伝えることでしたね。

1B 世界を提供するサタンの誘惑

そして、悪霊を追い出された時は、御霊によって神の国がそこに来ているとこの前読みました。しかし、その働きを行なわれるにあたって、誘惑を受けられました。四十日間、断食をされた後に空腹を覚えられて、その時に悪魔が試しました。石をパンに変えなさいと。それからイエス様を神殿の頂に連れて行き、そこから落ちてみて、御使いに拾ってもらいなさいと誘いました。それもイエス様は拒みませんでした。最後に、イエス様を「非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、こう言った。『もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。』（4:8-9）」イエス様は、「あなたにはこの世のすべての王国とその栄華を持っていない。」と反論されませんでした。事実、全ての王国とその栄華はサタンのものになっていました。この世を支配する者であり、その栄華も彼のものだったからです。

そして、イエス様はこの世をご自分のものにして、それから父なる神に明け渡すために来られたのですから、ここでサタンからもらえれば、すべて目的は達成できます。これはあたかも、フェンスが国境にあって、相手側から何かをもらえるほど接近できたけれども、正規の方法で行くとすると、その二カ国には国交が結ばれていないので、第三国、第四国を回って、それでようやく行けるかもしれないという遠回りをするのですから、もったいないことです。悪魔の誘惑というのは、いつもこれです。「たった今、あなたが欲しいものを得られるよ。」ということです。

2B ご自分の血の代価

けれども、イエス様は拒まれました。なぜなら、イエス様は正規の方法、すなわち世界を贖われるために代価を払って、買い取られるのです。「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。(マルコ 10:45)」イエス様は、サタンに売り渡されてしまったものを取り返すために、ご自分の命、その血という対価を払うことによって贖われるのです。

ですから、隠れた宝の譬えに戻ってください。畑というのが世界です。そしてその世界の中に、私たちがいます。イエス様は、私たちを見て、それですべての財産、つまりご自身の命を差し出して購入されました。なんという愛でしょうか！私たちは、今の世界で悪者によって人質になることが多いです。その時に人質を解放する時に、取引をすることがあります。莫大な身代金です。イエス様は、私たちを罪から解放するためにとんでもない高価な対価を支払ってくださいました。ご自分の尊厳、ご自分の体、そしてご自分の魂、そしてご自分の血そのものです。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハ 3:16)」

3B 花嫁なる教会

ここで大事なのは、イエス様が来られたのは世を贖うためでありますが、なぜ世を贖うかといえ

ば、そこに大切な人がいるからです。そうです、私たち一人一人です。ご自分の教会です。ご自分の教会があるから、これをご自分のものとするために世を贖われます。イエス様は、この世を神の国にするために再び地上に戻ってこられますが、その前に私たち教会のために戻ってきてくださいます。イエス様は、今、教会をこよなく愛しておられ、花嫁として整えられるために、御言葉によって清めてくださるのです。「エペ 5:26-27 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」私たちは、日々の生活を歩んでいます。キリストを信じて歩こうとしています。その一つ一つが、イエス様にとってはとても大事に思っています。

主が花婿として、戻って来られる時に、花嫁は聖なるもの、傷のないものとして栄光の教会をご自分の前に立たせたいのです。いかがでしょうか、私たちが神の前で傷があるところがありますか？それを、御言葉によって清めていただきましょう。イエス様が戻ってこられます。天から空中にまで降りてこられて、私たちは一瞬にして引き上げられます。既にキリストにあって死んだ人たちがまず甦りますが、その後に生き残っている私たちも引き上げられ、主に顔と顔を合わせてお会いするのです。そして、黙示 19 章によれば天において、子羊との婚宴があります。主が私たちをご自分の妻とされるのです。それまでの間、私たちはしっかりと耐え忍び、イエス様に付いていく必要があります。苦しくなるでしょう、辛くなるでしょう、途中でやめたいなど思うかもしれません。パウロは、信仰を競走をしている選手に例えました。ですから、その練習でもう放棄したいと思う時があります。でも、あきらめません。聖霊がそばにいて励ましてください。聖霊は、「呼ばれて、そばで援助する者」という意味、パラクレトスという名をイエス様から与えられています。長距離走を走っている時に、コーチのようにして横について、いろいろ助言をし、励ましてくれるのです。そして教会として集まる時に、私たちは互いに励まし、勧め、注意し合って、しっかりとキリストの道を歩んでいることができるように互いに守るのです。

4B 世界の権利証書

世界から、私たちは贖い出されて天において主のもとに行きます。けれども、世界自体はそこに不義があるために神の怒りを受けます。しかしそれは、怒るために怒っているのではなく、むしろ不義を滅ぼすために御怒りを示されるのです。黙示録を見れば、6 章から 19 章までに神の怒りがどのように現れているかを見ることができます。そして、サタンのかと権威、地位を受けている反キリストが最後に滅ぼされます。そして千年後には悪魔自身がゲヘナに投げ込まれます。こうして、世界が神のものとなります。その神の国を、アダムにかつて神が与えられたように、私たちに相続として与えてくださるのです。

ヨハネは、黙示録で幻の中で、とてつもなくスケール、規模の大きい幻を見ます。神が御座に、天において着いておられ、右の手に巻物を持っておられました。七つの封印で巻物は閉じられて

いました。天使が、「巻物を開き、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げていました。「しかし、天でも地でも地の下でも、だれ一人その巻物を開くことのできる者、見ることのできる者はいなかった。」とあります。ヨハネは、「激しく泣いた。」とあります(5:4)。これは、旧約聖書にある権利証書のことを指しています。レビ記において、土地を誰かが売り渡しても、近親者が来てそれを買戻すことについて定められていますが、その買戻しの時にその権利があるかどうかを証明するものです。エレミヤ書にも、そのことが書いてあって、エレミヤが買戻しをして、封印をする権利証書については話しています。

それは、全世界に対する権利証書だったのです。それを神が持っておられ、七つの封印で開けないようになっていました。しかし開くことができる人が誰もいないことをヨハネは知って、むせび泣いたのです。今の世界を見てください。私たちの身の回りにも、福音さえ知ってくれればどんなに楽になれるのに、と思っても、なかなか近づいてくれない人たちがあまりにもたくさんいます。自分はこのままでいいのだと思っている人たちが多くいて、直そうと思っている人はどんどん正反対の方向に突っ走ってしまいます。あまりにも必要が大きいです。そして世界はどんどん悪くなる一方です。人間はどんどん良くなるのだという世界観を持っている人は、本当に少なくなっているでしょう。むしろ、滅びに向っているのでは？と感じている人が多いでしょう。

しかし、それを根底から変える人が現れました。どんな人でも直せないものを直す力と権威を持っている方が現れました。黙示 5 章を続けて読むと、こう書いてあります。「5:6-7 また私は、御座と四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中に、屠られた姿で子羊が立っているのを見た。それは七つの角と七つの目を持っていた。その目は、全地に遣わされた神の七つの御霊であった。子羊は来て、御座に着いておられる方の右の手から巻物を受け取った。」屠られた姿で来られた子羊、そうイエス様ご自身です。そして御霊に満たされた方であり、この方のことを長老は「ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つ封印を解くことができます。(5:5)」と言いました。イエスが勝利されたのです、死なれて、贖いの代価を支払われ、死者の中から甦られたのです！

そして七つの封印をイエス様は一つ一つ解かれて、全てを解かれた後に、ご自身が地上に力と栄光をもって現れます。反キリストの勢力をことごとく滅ぼされ、そして確かにご自身が王となられて、この世界を神のもとにお戻しになられるのです。どうか、日々の生活に疲れた時、世の流れで不安を覚えた時に、忘れないでください。私たちは、来るべき世を期待しています。激しい迫害を受けていた初代兄弟の先輩方は、挨拶の時に、「マラナタ」と呼びました。「主よ、来てください。」という意味です。

4A 尊く、愛された者たち

そして、その畑を購入したけれども、目的は隠れた宝だということです。私たちのために、世界は

あり、その世界は私たちが支配、すなわち管理するために与えられます。神は、このように聖徒たちをご自分の宝なのだということを知ってほしいと願われています。かつてイスラエルに対して、彼らが宝であると言われました(出エジ 19:5)。あれほど不従順で頑なであった民が、神に愛されていました。荒野の旅で、バアルが呪おうとした時も、神は彼の呪いを祝福に変えて、「ヤコブの中に不法は見出されず、イスラエルの中に邪悪さは見られない。(民数 23:21)」とまで宣言しました。

パウロは祈りました、「あなたがたの心の目がはっきりと見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが神の資産であることがどれほど栄光に富んだものか(エペソ 1:18 別訳参照)」これは別訳なんですね、私たちが神の資産を受け継ぐだけでなく、神は私たち自身を資産としておられる、つまり宝としておられるということです。これは、私たちにそんな価値があるからではありません。むしろ、イザヤ書によればイスラエルは虫けらのような存在です。ところが、虫けらのような存在と共にいてくださり、打刻機のようにして山々を踏みつけて粉々にするとあります(41:15 参照)。主は、高価で尊いと言われるのです。

ルツの話も思い出してください。ルツの姑ナオミの夫エリメレクの土地を、ボアズが買い戻しました。彼は近親者だったからです。けれども、それには包括的なものでした。ナオミの嫁であるルツを妻として、エリメレクの名を遺すという条件だったのです。ボアズは確信犯だったのです。土地の買い戻しが目的ではなく、ルツを主にあって愛してやまなかったからです。彼女を自分のものとするために、土地の買い戻しの権利を主張したのです。キリストは戻ってこられます。世界を変えられ、新しくされます。しかし、それは私たちをご自分のものとするため、子羊の妻とするためです。